

テキスト マタイによる福音書13章1～9節、18～23節

(1) たとえをもって語られる

- ①主イエスは、しばしば印象深いたとえで、神の国の恵みと神秘を語られました。たとえで語ることによって、深い真理を分かりやすく語ることができます。主イエスは、神の国を説くにも、けって抽象的な原理を語るのではなく、神の国が、どのように現実の人間の生活のなかで、生き生きとした姿を現わすかを物語りました。主イエスの「語り」の最も優れた方法が、たとえ話であったことは、だれも異論がないでしょう。
- ②たとえで語ることは、深い真理を分かりやすく、鮮明なイメージで伝えるという利点があります。深い真理を、具体的な事例で示すという方法が、神の国の教えに相応しいことを、主イエスはよく弁えておられました。

(2) 種を蒔く人が……出て行った

- ①種を蒔く人の姿は、いつでも厳粛です（ミレーの『種蒔く人』）。どんな種であれ、一粒一粒に、大切な命が宿っているからです。「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌とともに刈り入れる」とあるように（詩編126編）、命あるものを一度土に返す痛み（涙）と、やがて来る実りと収穫の喜びが、「蒔く」という一つの行為に凝縮されているのです。
- ②たとえでは、種が落ちてゆく「土地」の違いが、種の運命を大きく左右する様子が、鮮やかに描き出されます。同じ種、同じ蒔き方ですが、種を受け止める土地の違いが、「失意」と「収穫の喜び」を分けてしまうのです。種蒔くことは、報われない行為でもあります。それでも、種を蒔くために出て行く。それはまさしく御国の伝道者イエスのお姿でもあると思います。学生時

代に、はじめて出席した聖書研究会で開かれたページがこのたとえでした。読み終わって、それぞれの言葉を心に刻んだかを語り合うのですが、指導された宣教師が、「見よ、種まきが種をまきに出て行った」（口語訳）を選ばれたときの感銘を今も忘れません。

(3) 御言葉を聞いて悟る人に

- ①たとえの焦点は、御言葉をどのように聞いているかにあります。
御言葉の種は、「道端」にも落ちてゆきます。どこに落ちるかは「種」の責任ではありません。どんな心で御言葉を聞かかが、実りと不毛を左右するのです。道端は、御言葉にまったく心を開かない聞き方です。神様の呼びかけに対する、どんな感受性も持ち合わせない不幸な土地です。
- ②「石だらけの所」では、石の上に降りたわずかの「露」で、一時的に芽を出しますが、自分に「根」がありません。一時的な心の抑揚に支配されない信仰生活を目指すべきです。
- ③「茨の中」も、御言葉の実りを妨げます。「世の思い煩いや富の誘惑」で、せつかくの信仰がかき乱されます。一途にキリストへと向かうために、なくてはならないものは多くない、という主イエスの御言葉を心に刻むべきです。
- ④「良い土地」になって御言葉を受け入れましょう。はじめから「道端」に定められた人はいません。御言葉の届かない場所、御言葉が蒔かれない土地はないのです。御言葉を蒔き続けてくださる主イエスの愛と信頼に、悔い改めと信仰をもって応えるなら、私たちも「良い土地」であり、豊かな実を結ぶのです。（小野静雄）

テキスト マタイによる福音書13章1～9節、18～23節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問69、70

〔単元のねらい〕

新しい年を迎えました。心を新たに、日曜学校の奉仕にあずかってまいりましょう。私どもの務めは、神の生ける言葉を子どもたちに「信仰をもって」伝えることです。御言葉を「信仰をもって」教えることです。伝える御言葉には、力があります。しかしそこで改めて問われるのは、私どもの信仰です。本日のたとえを語るときにこそ問われてまいります。つまり、自分自身が一人のキリスト者として、豊かな実を結んでいる、結びつつ前進しているという「明るい信仰」です。もし、昨年、私どもが神の言葉を聴き続けて歩んで来たのであれば、私どもは間違いなく、主イエスの約束された豊かな実を結びつつあるのです。この信仰によって、このたとえは力を発揮します。私どもが語る御言葉とは、十字架で死なれた「一粒の麦」である主イエス御自身のものだからです。教師こそ、御言葉を聴く人であるべきです。そして信じる人であるべきです。「イエスさまはあなたをよい畑として見て、種を蒔かれています！」と言い抜く信仰です。願わくは、この一年もまた、御言葉の力を体験する一年となりますように。自分のために、否、子ども達のためにこそ。

「賢い人って、誰のこと？」

新しい一年が始まりました。皆は、お正月の間、何度も「明けましておめでとうございます」と言ったり、聞いたりしたと思います。もうお正月の気分も薄れてきたかもしれません。けれども、先生は、新しい年の最初の礼拝式に皆さんに、心から「おめでとう」と挨拶したいと思います。神さまは、皆さんに、おめでとうと祝福しておられます。どうしてかという、僕たち私たちが、今朝、一年の初めの日曜日に、神さまの教会に来て、礼拝を捧げることができているからです。礼拝で神さまの御言葉を聴くことができているからです。世界中で、こんなにすばらしい恵み、こんなにすごい幸せはないからです。

「一年の抱負」という言葉を聴いたことがありますか。この一年の目標を立てるのです。学校での抱負は何ですか。それなら、日曜学校での抱負はありますか。皆で考え、発表しあうのも楽しいですね。

今年の一年。どんな一年になるのでしょうか。どんな一年になったらよいと思いますか。実は、

どんな一年になるのか、多くの人たちが心配しています。そこで、なんとか悪いことが起こらないようにと、神社に行ったりする人が多いのです。けれども先生は、信じています。それは、教会で神さまの御言葉を聞き続けている僕たち私たちが、必ず、神さまの祝福が豊かであるということです。

今、読んだたとえ話のなかで、イエスさまは、「良い土地に落ちた種は実を結んで百倍にもなった」と仰いました。種というのは、イエスさまの御言葉のことです。種が実を結び百倍になる。これが、イエスさまの御言葉を聴いて悟る人の姿だと教えてくださいました。これは、イエスさまのお約束なのです。僕たち私たちのこの一年も、教会でイエスさまの御言葉を聞き続けるなら、必ず天国の実りを結べるわけです。それは、どんな実でしょうか。パウロ先生は、こう教えています、「霊の結ぶ実は、愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」九つの実はすべて良いものばかりです。天国の実です。神さまが僕たち私たちを、天国に入る子どもにふさわしく

整えてくださるのです。また、この地上で天国、神さまの御国を広げてゆく働きをさせてくださるのです。これが、イエスさまの約束です。イエスさまは、僕たち私たちをそのようにしてあげると約束してくださいました。また、イエスさまは、僕たち私たちをそのようにしたくてたまらないのです。

そのために、イエスさまは、いつもお話をされる時、とても真剣です。イエスさまは何度も、お話を始める前にこう仰いました。「耳のある者は聞きなさい。」これは、真剣に、よーく聞きなさいということです。

先生も、お話をしている今も、いつでも、このイエスさまの御言葉、口癖のような「耳のある者はよく聞きなさい。」という御言葉の大切さを感じます。皆も学校や幼稚園で先生のお話を毎日、聞くでしょう。でも、友達と話をしていたり、頭の中で他のことをあれこれ考えたりしていると、先生の大切なことを聞きそこなうことがあるでしょう。もしも、「明日は学校がお休みです。」とか、「明日は、テストをします。」とか言われたのに、聞き損ったら、大変なことになりますよね。それなら、イエスさまの御言葉は、学校の先生の言葉とどっちが大切ですか。もちろんイエスさまですね。イエスさまの御言葉は、命の言葉です。100倍も実を結べる言葉です。天国に入ることもできる言葉です。反対に、天国に入れなくなってしまうことにもなるのです。

天国に入れられない人は、どんな人なのでしょう。最初は、道端に落ちた種でした。人が歩く道は、コンクリートの道ではなくても、種が落ちては決して、根っこが生えませんが、土が固いからです。それは、イエスさまの言葉を聞くには聞くのですが、神さまの御言葉として聞かない人のことを意味しています。ただの人間の言葉と同じに考えるのです。「昔のすごく有名で、偉い人の言葉らしいよ。」「へー、そうなんだ。でも、それがどうしたの。僕には関係ないね。」それくらいのお話と

聞く人のことです。

二番目は、石だらけで土の少ない地に落ちた種です。確かに土があります。だから、根っこが生えて行きます。ところが、伸びるぞ、と思うとすぐに、石にぶつかります。そうすると、もうそれ以上、伸びませんから、枯れてしまいます。それは、神さまの御言葉を最初は、喜んで聞くのですが、その後で、必ずやってくるこんな言葉に負ける人のことです。「イエスさまより、教会より、楽しいことがあるよ。」とか、「キリスト教や教会の教えを深く信じるのは、いけないこと。間違い。」最初は、良かったのに、人間の言葉に負けてしまうのです。

三番目は、茨の中に落ちた種です。「もっと、君の役に立つ教えがあるよ。」とか「塾に行ったほうが、もっと豊かな実を結べるよ。日曜学校より大切なんだよ。」誘惑です。

これまでの三つの場所は、結局、御言葉を聞いて、悟らない人のことです。信じない人のことです。それなら、御言葉を信じる人、信じ続ける人はどうなるのでしょうか。100倍の実です。すごい祝福です。どうすれば、今年、100倍の実を結べるようになるのでしょうか。それは、イエスさまの御言葉を心にしっかりと信じることです。一番、大切な言葉とすることです。他のどんな人のお話、本より、イエスさまやイエスさまのことが書かれている聖書を大切にすることです。一番は、日曜学校の礼拝です。そして、二番は、「いのばん」です。毎日、家でもお祈りするのです。そのようなお友達は、間違いなく、良い地に落ちた種です。この種は、イエスさまのことを意味しています。イエスさまは、一粒の種として十字架で死なれた後、何百、何千、何億、何百億、数え切れない人間を神さまの子ども仲間、天国に入れてくださいました。すごい力があるのです。イエスさまは、御言葉を信じている僕たち私たちの心の中に宿ってくださいます。 (相馬伸郎)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書13章8節

ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、
あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。

〈分級では〉

新年を迎えることが出来た感謝を主に捧げてから分級を始めましょう。

教会によっては、お餅つきのイベントをしているところもあるかもしれませんね。

この分級でも今年一年の神様とお友達に対する思い（抱負）を書いた凧を飛ばして遊んでみるのもいいかもしれません。

〈分級のねらい〉

四種類のそれぞれの状況は、私たちクリスチャンにとっても当てはまるのではないかと思います。

イエス様が、その生涯を通じ父なる神様に対して、私たちのために常に従順だったことを思うと、自然と御言葉を聞く態度を考えさせられます。そのイエス様に背中を押されて、イエス様と共に信仰を育んでいきましょう。

〈展開例〉

①それぞれの土地をイメージしたものを画用紙に

色を塗ったりしてつくる。良い地には茶色く染めた綿を使うと良いかもしれない。

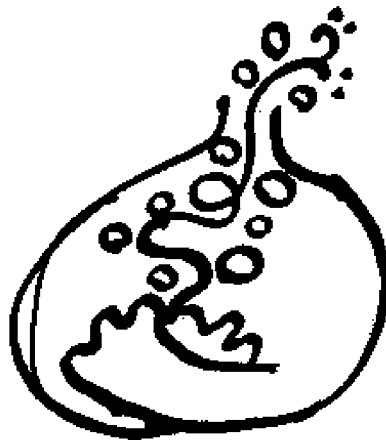
②先生が、種をイメージしたビーズなどを使ってその種を適当に配置された地の上に蒔く。ここでメッセージの復習もかねてそれぞれ質問したりして、それぞれの地に落ちた種はどうなり何を表すかを示す。

③良い地に落ちた種（信仰）が成長していくのは誰のおかげかも示す必要がある（コリントー3：6）。

④最後にみんなでそれぞれ自分の種を決め、「神様お願いします。」などの合言葉を言って良い地に蒔くのもいいかもしれない。

〈おいのり〉

神様、御言葉をありがとうございます。みんなを良い地に入れてください。そして神様と一緒に成長していくことが出来ますように。



良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍

〈ねらい〉

神様のみことばを信じて従う人には、豊かな実りが約束されていることを分かち合う。

心を新たに、喜びと希望を持って新年をスタートする。

〈展開例〉

1. みなさんは学校の授業で、種をまいたことがあるでしょう。小さな小さな一粒の種でも、お水をあげたり、陽に当てたり、一生懸命お世話をすれば、花が咲き、実がなります。とても嬉しいですね。でも、もし途中で枯れてしまったり、よく育たないのがっかりします。(できれば、鉢植えの花、稲または麦の穂、米や小豆など、何かしら実物を持ってきて見せ、お互いの経験などを具体的に話し合う。)
2. イエス様が教えてくださった、よい土地に落ちて百倍、六十倍、三十倍の実をつけた種は、どんな人のことでしょうか？

→聖書をよく読む人、神様のみことばを聞いてそのとおりにする人、などの答えに導く。

3. 今みなさんは、まだ種から芽が出たところですね。これからどんな花が咲き、実を付けるのでしょうか？ 新しい年、神様から祝福をたくさんいただいて、豊かに成長したいですね。今年の目標、挑戦したいことはなんですか？

→それぞれの思いに耳を傾け、励ます。ひとりひとりの置かれている状況や、興味、関心のあるところを知り、今後のコミュニケーションに用いたい。

〈おいのり〉

神様、私たちに新しい年を与えてくださり感謝します。神様のみことばが世界中の人々に宣べ伝えられ、豊かな実を結ぶ年になりますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

実を結ぶよい土地となるために。

〈展開例〉

1. 種と土地は何を表しているのでしょうか

①種とは → (答) 神の言葉

(ヒント) 種には命がある。同じように人に命を与えることができるもの。生きていて力があるもの(ヘブル4章12節)

②土地とは → (答) 神の言葉を聞く人の心

(ヒント) 神の言葉はどこにまかれる？

2. 四つの土地

①「道ばた」とは「固い心」のことです。

心を固く閉ざしているので、種である神の言葉が心に入っていきません。神の言葉を理解しようとしないう心、受け入れようとしないう固い心です。サタンが来て御言葉を取って行ってしまいますので、心には残りません。

②「石だらけの所」とは「浅く薄っぺらな心」のことです。

土は少しあるので芽は出るのでありますが、根がないので日に照らされると枯れてしまいます。御言葉を喜んで受け入れるのですが、教会へ行っていることだからかわれたり、反対されたりするとつまずいてしまうのです。教会に来なくなってしまうたり、神様から離れてしまいます。

③「茨の中」とは「思いわずらいや誘惑でふさがれた心」です。

せっかく芽が出て伸びようとしても、茨に邪魔されて大きくなれません。茨とは、心の中にあるいろいろなものです。自分を幸せにしてくれそうな楽しいこと、しなければならぬ勉強や生活の心配などです。それらが神様より大切になると、神の言葉はそれらにじゃまされて成長できません。

④「よい土地」とは「やわらかい心でしっかり御言葉を受け入れる心」です。

よい耳でしっかりと御言葉を聞き、理解し、深いところに、根をはるようにしっかりと受け入れる心です。そういう人は御言葉を自分の中で成長させ、100倍もの実を結ぶのです。

3. よい土地としていただくために

・神様の言葉を心の耳をすませて聞きましょう。礼拝の説教を聞くとき、また自分で聖書を開いて読むとき、「神様、あなたの御言葉を正しく理解できるように助けてください」と、祈りましょう。

・聞いた御言葉を静かに考えましょう。御言葉をとおして、神様が私にどんなことを教えておられるのかを、静かに思い巡らしましょう。

・聞いた御言葉が自分の中で成長するために、御言葉を覚えましょう。

御言葉を聞かず、種をまくことや心を耕すことをなまけたりしていると、心は固くなったり、雑草がはえてきて実を結ぶことはできません。私たちは毎日、心の中に種をまき、耕し、深く植えていただくことが大切です。

4. デボーションノートを作ろう(デボーションとは神様の前に静り、神様と交わること)

用紙に年月日、聖書箇所(聖書箇所は教案誌の最後にある「いのちのパン」を利用してもよい)、要約(どんなことが書いてありますか)、心に残った御言葉、神様はあなたに何を教えていますか、などの見出しを書く。(各見出しの下に記入のための空白を作る)

デボーションのやり方の例

1. 聖書箇所をよく読む
2. デボーションノートに記入する
3. お祈りする

今日のカテキズム)

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問
69、70が挙げられています。

問69 御言葉とは何ですか。

答 生ける神の言葉、イエス・キリストです。
書かれた神の御言葉である聖書と、聖霊なる
神さまが語られる神の御言葉としての教会の
説教を通して、私たちは、イエスさまと一つに
結び合わせられます。

問70 御言葉は、どのようにしてあなたに救いの
恵みを与えるのですか。

答 私たちが、神の御言葉である聖書と説教に
正しく聴き従うことによってです。御言葉を
よく聴くことこそ、神さまへの愛と奉仕
です。

※み言葉の説教をどのように聞くべきか、ハイ
デルベルク信仰問答は次のような問答で記して
います。長いので、覚えるのは難しいかもしれ
ませんが、紹介してください。

ハイデルベルク信仰問答

問84 聖なる福音の説教によって、天国はどのよ
うに開かれまた閉ざされるのですか。

答 次のようにです。すなわち、キリストの御
命令によって、信仰者に対して誰にでも告
知され 明らかに証言されることは、彼ら
が福音の約束を まことの信仰をもって受
け入れる度ごとに、そのすべての罪が、キ
リストの功績のゆえに、神によって真実に
赦されるということです。

しかし、不信仰な者や偽善者たちすべてに
告知され 明らかに証言されることは、彼
らが回心しない限り、神の御怒りと永遠の
刑罰だが、彼らに留まるということです。
そのような福音の証言によって、神は両者
をこの世と来るべき世において裁こうとな
さるのです。

※御言葉について教えている、ウェストミン
スター小教理問答問89・90は、11月12日に出
てきました。覚えているかどうか、もう一度お
さらいしておきましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問89 御言葉は、どのようにして救いに有効とさ
れますか。

答 神の御霊が、御言葉を読むこと、特に説教
を、罪人に罪を自覚させて回心させるため、
また信仰によってきよめと慰めのうちに救
いに至るまで建て上げるために、有効な手
段とされます。

問90 御言葉が救いに有効となるには、御言葉を
どのように読み、また聞かなければなりま
せんか。

答 御言葉が救いに有効となるには、私たちは、
勤勉、準備、祈禱をもってこれに傾聴し、
信仰と愛をもって受けいれ、私たちの心の
うちに蓄え、私たちの生活の中で実践しな
ければなりません。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	ルカ8：15
月曜日	詩編119：18
火曜日	ヤコブ1：25
水曜日	詩編19：8
木曜日	ローマ15：4
金曜日	箴言8：34
土曜日	ペトロ後2：1～2

先生方へ①

いよいよ最後のタームになりました。今年度
は、教理問答を、文字通り「問答」という言
語活動をしながら、先生と生徒の間の対話を
生み出し、生徒が心に御言葉を蓄えていく助
けとなるよう、これを行うことを目的として、
分級展開例を記してきましたが、いかがだっ
たでしょうか。